

# ざっくばらんに交流しよう

## ～居場所づくりと消費者団体の関わり パートII～



日時: 2018年11月30日

13:30～16:00

会場: 東京都消費生活総合センター

参加者: 32名

主催: 23区消費者団体活動情報交流会  
実行委員会

東京都消費者月間協賛事業

今回の交流会は、地域で活動するいろいろな団体が得意なことを持ち寄ったサロン活動、行政と協力しながらの啓発活動、定年後の男性の活動の場づくりの3つの報告をいただきました。後半は、グループで報告を聞いての感想や居場所づくりと消費者団体の関わり方について話し合い、発表しました。発表では「つながりをこちらからつくっていく」「男性をもっと活動に巻き込む」などの意見が出されました。



東京都消費生活総合センター活動推進課長 佐々木 勝広さん

**東京都挨拶:** 東京都消費生活総合センターも来年50周年を迎えます。行政も既存の消費者団体だけでなくNPO法人などとも交流を深め新しい力になるようにしたいと考えています。本日の交流会では、自立した消費者市民社会の構築に向けてさまざまな団体との交流を通し、協働、連携をさらに進めていただきたいと思います。



司会: 花本 純子さん  
東京都生活協同組合連合会

### 荒川区 ふれあい絆(いき)・活(いき) サロンの活動

社会福祉法人 荒川区社会福祉協議会  
稲葉 隆裕さん



荒川区も再開発が進み人口も増加し孤立化が問題になっています。そこで、テーマを持って活動している消費者団体と地域の町会・自治会、民生委員児童委員、地域包括支援センターなどでつくるプラットフォーム型の協働関係を通して生活課題の解決を図るため「ふれあい絆・活サロン」に取り組んでおり、現在では区内88か所まで拡充。高齢者等への緩やかな見守り・支え合いのネットワークが住民主体で機能するように地域コーディネーターを配置して、それらの調整や相談対応も行っています。また「居場所」に関する要望があった場合にも、社会福祉協議会として立ち上げをサポートしています。

### 練馬区と協働した啓発活動

練馬区消費生活センター運営連絡会  
川端 法子さん



消費生活センター運営連絡会は、40年前に牛乳パック回収活動から始まり、行政と一緒に暮らしの問題に積極的に取り組んでいます。石神井公園交流センター活動室を拠点とし、5グループに分かれて活動しています。年6回発行の広報紙「ぷりずむ」は、区が費用を補助し、編集は広報グループが行政職員と相談しながら制作しています。消費者講座、生活展やパネル展も区と協働して取り組んでいます。保健所シンポジウムにはパネラーとして参加しています。27の賛助団体と情報交換もしています。行政との話し合いを重ね活動もしやすくなりました。会員の高齢化など悩みですが、まとめながら仕上げていく楽しさを伝え、会員を増やしていきたいです。

### 男の居場所 おもちゃ病院・大田

おもちゃ病院・大田 ドクター  
市川 光一さん



おもちゃ病院・大田は、平成12年4月設立、定年後の男性の居場所として、捨てるおもちゃの削減とものを大切に扱う「心」を育てることを信条におもちゃの修理を行うボランティア団体です。メンバーはドクター18名(男性)とナース5名(女性)で、消費生活センターを拠点に活動しています。大田区消費者団体連絡協議会のメンバーとして大田区消費者生活展でもおもちゃの修理を行っています。活動拠点があり、自分も楽しみながら達成感や社会貢献できる満足感を味わい、そして子どもたちの笑顔や「ありがとう」の言葉が励ましになり活動は続いています。



新宿区消費者団体連絡会  
鍋島 照子さん

**閉会挨拶:** グループ発表では、高齢化の問題や人とのつながりなど苦労のある中で前向きな意見が出されました。今日の交流会での意見を今後の活動の参考にしていただきたいと思います。